

2008年に設立して以降、年に約1店舗のペースで新規開業し、現在は薬局10店舗、介護事業所3カ所の運営を行なう株式会社ファーマスター。常にチャレンジ精神を持って、業界での革新的な実証実験や新規事業にも積極的に取り組む、代表取締役の梅田鉄兵さんにお話を伺いました。

株式会社ファーマスター

代表取締役・UMEDA TERPEI

梅田 鉄兵さん

Company Data | 会社概要

株式会社ファーマスター

【創業】2008年
【所在地】名古屋市緑区南大高3-1306
【TEL】052-623-8008
【URL】https://pharma-star.jp/
【事業内容】医薬品の調剤および販売ならびに介護支援事業、居宅サービス事業



薬剤師として社会に貢献できる ビジネスを追求していく



医療を通じて地域に貢献していきたい、との想いを大切にしながら事業拡大を進めており、2013年からは、周辺の薬局に先駆けて訪問業務も行なっています。

多くの人に支えられ、創業から15年足らずで複数店舗を持つまでに成長

当社は、当時私が勤めていた調剤薬局から独立のチャンスを得た2008年に設立しました。大学生の頃からいすれは独立をと考えていたので、その好機に実行した形です。ありがたいことに業績は順調で、年に約1軒のペースで新店舗をオープンし、現在は薬局10店舗・介護事業所3カ所を運営しています。

1店舗から始めた調剤薬局が、複数店舗を経営する企業にまで成長できた最大の要因は、人との縁だと思っています。現在当社が運営する店舗のほとんどは、お世話になった友人や医師などの紹介を受けて開業にいたっています。調剤薬局の開業は基本的に、病院や医師からの依頼で希望の条件に合った土地・建物を探るところから始まります。その後も取り扱う薬の種類など様々な点で連携していくため、医師らとの信頼関係の

構築は何より大切です。そこで私が信頼関係を構築するために意識しているのは、常にスピード感を持ってフットワークを軽く行動すること。なるべく先方の要望に合わせてスケジューリングできるように、現場は基本的にスタッフに任せていつでも動けるようにしています。

このように現場を任せられる優秀なスタッフに恵まれている点も、当社が成長している要因のひとつだと感じています。ですが従業員の皆さんには一貫して、「人生の中で優先する順位は、①自分、②家族、③会社でよい」と伝えていきます。この原則に則った上で、誠実に勤め上げてもらえればよいからです。結果的に皆さんののびのびと働くことができて成長につながり、離職率も低く抑えられています。先日行なった従業員の満足度調査では、「身体が動く限り当社で働き続けたい」と答えてくれた人が3割以上いることも分かり、定年を超えても勤めたいと思っている人が想像以上に多く、経営者冥利に尽きる嬉しい出来事でした。



社名の由来 /



「薬局の星」になりたいとの願いを込めて、pharmacy(薬局)とstar(星)を組み合わせた造語で、ファーマスターと名付けました。薬局業界で光り輝く一番星のような存在になれればと考えています。

愛用のアイテム紹介 /

白衣



薬剤師のトレードマークである白衣です。最近では事業運営に回っているためスーツを着ている場合が多いのですが、白衣を着て直接患者と接する時間は、薬剤師としてお役に立てていることを改めて実感できる大切なひとときです。

仕事で大切にしていることは /

世のため人のため
 地域のために、
 正しい道を
 歩み行動する。

これは、当社が経営理念に掲げている言葉です。当社は株式会社なので当然利益を追求して行動しますが、必ず上記の言葉に沿っているかどうかを確認します。ほとんどの企業が同様の想いを抱いていると思いますが、わざわざ都度確認している企業はそれほど多くはないのではないでしょうか。



ドローン薬局プロジェクト

小型無人飛行機ドローンに備え付けた箱に医薬品を入れ、患者の元へ配達します。薬が到着した後は、テレビ電話など遠隔で服薬指導を行なうことを想定しています。



事業継承による店舗拡大

2020年より事業継承を受けて当社が運営を行なっている、あま市のみまわり調剤薬局。高齢で店舗運営が困難になった方や、後継者がいないなどでお困りの方は、ぜひお気軽にご相談ください。



マックスバランス

当社が開発した、認知症の予防・改善に向けた健康補助食品。認知症の名医が監修した商品で、摂取によって発語の量が増えた事例もあります。



デイサービスそれいゆ

瀬戸市にある、当社が運営する通所介護サービス施設です。介助をはじめ、送迎、リハビリ、レクリエーション、入浴、食事サービスなどの提供を通じて、日常生活を快適に過ごしていただくことを目指しています。

新規プロジェクトや
 事業の多角化に挑戦し、
 経営リスクを低減



介護・製薬事業を開始して
 利益を伸ばし、
 地域社会に還元していく

当社の成長を支えてきた薬局事業のほかに、2015年には通所介護サービス施設「デイサービスそれいゆ」を開業し、介護事業をスタートしました。始めた主な理由としては、2009年の薬事法改正による医薬品販売の規制緩和などの影響で、今後薬局事業の収益が落ち込んだ場合のリスクを低減するために、経営の多角化しておくべきだと考えていたからです。同様の理由で、メインの薬局事業の収益拡大に向けては、2013年から訪問サービスを開始しています。高齢者のニーズと高齢人口増加を受けて、厚生労働省も在宅医療を推進しているので、需要は今後確実に増えていくでしょう。また2021年には製薬事業にも着手。第一弾として医師の監修で健康補助食品「マックスバランス」を開発・販売するなど、様々な事業に挑戦しています。

中でも革新的な取り組みとよく言っていたのが「ドローン薬局プロジェクト」です。これは薬局への来店が難しい離島や山間部の患者向けに、ドローンを飛ばして医薬品を配達することを目指して、2017年にスタートしました。実証実験ではすでに、海を渡り約3kmの距離の医薬品輸送に成功しています。現在は法規制があるため、実際に運用できるのはまだ先になりますが、実

現可能になった暁には、第一人者として牽引していければと考えています。

この「ドローン薬局プロジェクト」をはじめ、何か行動を起こす際には私は必ず、当社の経営理念である「世のため人のため地域のために、正しい道を歩み行動する」という言葉と照らし合わせるようにしています。この考え方に基づき、当社は利益を社会にも還元するべく、寄付や慈善事業といった社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。子ども食堂の開業や、母校へ消毒用エタノールの寄付、カンボジアへの車椅子の寄付のほか、少し変わったものでは東山動物園の動物スポンサーとなり、カピバラのエサ代を負担しています。これらの活動によって、当初目的としていた社会貢献は元より、従業員が会社に誇りを持って働いてもらえるといった思わぬ効果も得られました。

最近では、コロナ禍において医療従事者として何かできることはないかとの考えから、サンシャイン栄での職域接種にも協力しました。職域接種を行いたい企業や団体とクリニックをつなぐ役割として、関係各所との調整業務に奔走。申請の仕方や、疑問・質問への回答、接種のとりまとめなど、知見がない中での業務に苦勞も多くなりましたが、最終的には40団体と約5,000企業、延べ11万4千人を超える方々に接種していただくことができ、大きな達成感を得られました。

さらなる事業拡大の推進と、
 誰もが快適に過ごせる
 老人ホームを建設したい

調剤薬局は事業の柱なので、今後も縁さえあればどんどん店舗拡大を進めていきたいと考えています。同じく介護事業も拡大し、盤石な事業の柱として成長していくとよいですね。

今後始めたいことは老人ホームの建設です。コストカットに向けた様々な工夫を凝らして、月額利用料が10万円以内で快適に過ごせる老人ホームを開設できれば、多くの方に喜んでいただくと考えています。入居費用を子ども世帯が負担せずご本人の年金だけで賄えれば、社会全体にも良い影響をもたらすはずです。先述した経営理念の通り、私の行動の軸は「公共の利益と通ずるか」なので、今後も必ずこの基準と照らし合わせて、さらなる事業拡大を進めていければと思います。